

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
生きる力、確かな学力の育成に向けた組織的取組の推進 ・生きて働く「知識・技能」の習得(何を理解しているか、何ができるか) ・未知の状況にでも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成(理解していること、できることをどう使うか) ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養(どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか) 町田市教育プラン2024-2028を視野に入れて 重点項目 ・児童の「学び続ける力」を高めるための授業の改革。 ・えいごのまちだの推進 ・ICTを活用した学びの充実 ・児童が主体的に考え、伝え合う機会の充実

授業改善の重点
○学習規律やノート指導、板書等の共通理解を図り、「学習スタンダード」を意識した授業を展開する。 ○個に応じた指導を展開し、躓きを取り除き知識・技能を定着させる指導を積み重ねる。さらに、支援の必要な児童への手立てを研究する。 ○学習ドリルソフトQubena、東京ベーシックドリルを活用し繰り返し学習することで、基本的な知識技能を習得させる。 ○算数科少人数指導での習熟度別指導による「確かな学力」の定着を図り、「学びに向かう力」を涵養する。 ○各教科の本質的な楽しさを感じ、「分かる、できる、つくる」楽しい授業を目指す。さらに協働的な学びを充実する。 ○「対話」「協働」「探究」を軸に置いた創造的な「課題発見力・解決力」や「情報活用力」を伸ばす授業 ○ICT・読書・英語活動・家庭学習等を含め、すすんで取り組む態度を育成する。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	○すべての学習の基盤となる「読む」「書く」、更に「話す」「聞く」ことについての学力向上につながる指導をしていく ○言語活動の充実させるために詩や俳句に慣れ親しんだり、自学学習を通して語彙力を増やしたりしていく。 ○音読を日常的に取り組み、文章の構造と内容の把握を理解する力を身に付ける。 ○ブックトークやスピーチ活動を積極的に学習に取り入れ、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる力を付ける。	○主体的に音楽にかかわり、友達と協働して学習に取り組めるように、授業の始めに、学習の見通しを持たせる。 ○友達の歌声や演奏を聴き、自分の演奏をより良くすることができるように、ペア学習やグループ学習を取り入れる。 ○今何を学習しているかの内容がわかるように、ディスプレイに学習内容を映し出し、全体で確認、共有する。 ○ワークシートを活用して、指導と評価の一体化を図る。	① 隣接する雑木林を活用したり近隣の工場・事業所と連携したりすることを通して、体験的及び探究的な学習を充実し、自ら考え、判断し、表現する児童を育てる。 ② 多様な体験的活動を設定し、実社会・実生活の中で活用できる学習の充実を図る。	① 道徳教育推進教師を中心に6年間を見通した計画的、発展的な指導計画を立てる。 ② 児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの活動を充実させる。
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	○導入では、効果的な資料を活用し、児童の興味関心をもたせる。 ○ グラフや資料から、考察や類推をさせて、知識をつなげさせていく。 ○学習した知識を生かし、スライドや新聞作りなどを通して情報を整理したり活用したりする活動を継続的にを行い、まとめる力や思考力を身に付ける。 ○児童が自分の考えと友達の考えを比較したり関連付けたりできる時間を設定し、考えを深められるようにする。	○めあてを毎時間提示し、活動目標をはっきりさせる。ワークシートを活用し、活動を振り返り、段階的な知識・技能の向上を目指す。 ○鑑賞学習でワークシートを活用し、言葉に表すことに苦手意識を感じている児童も気持ち伝えられるようにする。 ○用具を試す時間を設け、より良い画材の使い方を発見したり、友達の工夫に気付いたりできるようにする。		
	算数科	家庭科		
	○思考力・表現力が身に付くように、ノート指導、作図指導などを身に付けさせる。 ○めあてを明確にし、自力解決の時間を設定し、自分の課題を知り、解決する態度を培う。 ○習熟度別学習においては、児童の実態を考慮する。全員が例題レベルの問題が解けるようにする。	○実物を見せたり、グループ別に指導したりして、集中して話が聴けるようにする。 ○既習の知識・技能の有無によらず基礎的なことから指導していく。 ○児童の学習意欲が支えられるよう、調理実習では選択の幅をもたせ、話し合いで決めるようにする。 ○学習したことを生かし、栄養のバランスを考えたレシピを作り、家庭で作った家の人の感想を聞き、レポートのまとめで発表会を開く。		
	理科	体育科		
	○学んだことが日常のどの場面に生かされているのかに気づき、自然を大切にすることを養う。SDGsを意識した授業づくりにとる組む。 ○実験観察は、目的をもって行い、友達の考えを聞きながら、ノートに自分の考えをまとめられるようにする。 ○自然び対する疑問をICTを活用して調べ、さらに自分の目で確かめる態度を育成する。	○様々な運動の楽しさを味わわせることにより、基本的な運動技能の向上と運動の生活化を図る。 ○日常生活における健康や安全について理解させ、健康の保持増進を図り楽しく明るい生活を営もうとする態度を育てるとともに基本的な生活習慣を身に付けさせる。		
生活科	外国語科(5・6年生)			
○隣接する雑木林や片所谷戸を活用、地域の人々、施設や店との連携をして、具体的な体験活動を充実し、思いや願いをもち、主体的に学ぶ児童を育てる。 また、自分自身の生活について考えさせ、必要な習慣や技能を身に付けさせる。 ○伝え合う活動を多く取り入れ、思考力、表現力を伸ばすと共に、友達や身近な人々とかかわるよさや楽しさに気付かせる。	○新たな教科書を活用した指導計画を基に、何を学ぶか課題を明らかにし、児童の主体性を育む。 ○本校の実態に応じた学習内容や、他教科と関連づけた内容を取り扱い、児童の思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ○年間を通して、ICT機器を活用し、思考を働かせながらコミュニケーションの基礎となる力を育めるようにする。 ○振り返りを通して、指導と評価の一体化を図る。			

	価値ある対話の共有	ICTの活用	振り返りの設定
本校の授業改善に向けて	各教科の目標が達成しやすいように価値ある対話の共有がされるような指導内容、方法を工夫する。 ・理科や社会科、国語科、音楽科において、考察や感想を共有し、話し合いを活発化する。 ・算数科では、多様な考えを出し合い、検討を大切にしている。 ・体育科では運動技能の向上のために、グループやチームでの話し合っ、動きを工夫する活動を取り入れる。	・ICTを利用した授業を各教科で工夫する ・算数科や外国語科で電子教科書の活用をすすめる。 ・社会科、家庭科、図画工作科では、考えや感想の共有、発表のシートづくりも取り入れる。 ・理科の観察、実験の記録に生かす。	学習したことを振り返り、次に生かすために以下の点に留意する。 ・学習ドリルソフトQubena、東京ベーシックドリルを活用し繰り返し学習することで、基本的な知識技能を習得させる。 ・外国語や体育科では、学習カードを活動し、各自振り返りをし、次時以降につなげる。 ・自己申告における授業において、町田市スタンダード授業改善シート[チャート図]を活用し、授業をデザインする8つの取組と関連させる。